

令和3年度学校自己評価システムシート (県立大宮光陵高等学校)

目指す学校像	校訓「自立、協調、創造」の理念のもと、確かな学力と専門的な能力を身に着け、情操豊かで、自主的・創造的な精神を持つ人間を育てる。
--------	---

重点目標	1 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業の改善。 2 向上心をもって進路希望の実現を図らせる指導の推進。 3 特色豊かな教育活動を通じた学びにむかう力の育成。 4 家庭・地域との積極的情報共有による信頼関係の構築。
------	---

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	4名
	生徒	6名
	事務局(教職員)	12名

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。
 ※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学 校 自 己 評 価							
年 度 目 標				年 度 評 価 (1 月 2 7 日 現 在)			
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策
1	(現状) 授業アンケートではある程度の満足度が示されているが、学びの意欲をさらに高めることが必要である。 (課題) 「学習の基盤となる資質・能力」の育成を授業の目標と位置づけ、教科等横断の視野からの改善を進める。	言語能力、情報活用能力、問題発見・解決能力等をどのように育成するか、各教科で明確にし、学校全体で共有することで、授業改善を組織的に行う。	①単元を通じて「何ができるようになるか」を学習者に明示する。 ②考察や観察の結果を整理し、表現することを単元の柱とする。 ③シラバスの内容を全体で共有し、活用する。	①単元に関する授業者の目標設定が学習者に適切に伝わったか。 ②シラバスの改善点を具体的に示すことができるか。 ③授業者、学習者ともに「単元」「教科等横断」の意識を持つことができたか。	①授業の目標が8割以上の授業で伝わったとする生徒は約45%。 ②考え表現することを8割以上の授業で感じたとする生徒は約32%。 ③観点別評価導入の過程で意見交換が活性化した。	B	授業評価について消極的の回答は2割未満。積極的の回答をさらに増やしたい。 観点別評価導入にあたり「何を」評価するのか、シラバス等で明示する。評価がより適切なものになるよう規準の検討を重ねる。
2	(現状) 主体的に進路を考える姿勢をさらに伸ばすためにも、情報の共有や進路について相談しやすい環境の拡充が望まれる。 (課題) 一人ひとりが向上心と計画性を持ち、早期から対策を取ることができることを目指して進路情報の共有を図る。	生徒が自身の現状をどのように受け止めているのか明確にさせた上で、必要な進路情報を適切に選択できる環境を整える。	① 考査や模試、成果発表に際し、目標を持たせ、振り返りをさせる。 ② 事前・事後指導を含め進路行事を充実させる。 ③ 学校・生徒・保護者が必要な進路情報を適切に共有する。	① 自分が得意とするものを一つでも生徒に意識させることができたか。 ② 具体的な進路希望を持たせることができたか。 ③ 進路情報共有について、生徒保護者の満足度は向上したか。	① 学校生活に熱心に取り組むとする生徒は約48%。 ② 進路の希望や目標を具体的に考えているとする生徒は約57%。 ③ 情報提供や相談が「適切」とする生徒は約55%。昨年比+3割。	A	進路情報提供や相談体制を適切とする回答は生徒保護者ともに漸増傾向。総探のプログラムにキャリア教育が取り込まれている。 これまでの取組を踏まえてつつ生徒の主体的取組をさらに活性化させる。
3	(現状) 高いレベルの芸術活動や国際交流を大きな特色とする本校には、学校全体として落ち着いた雰囲気がある。 (課題) 高い専門性を教育活動全体の基盤とすることで生徒一人ひとりに誇りを持たせ、自己肯定感を高める指導を継続する。	光陵高校としての一体感と学びの場にふさわしい環境づくりを目指し、特色ある教育活動を校内でも積極的に共有しながら帰属意識と学びの意欲を高める。	① 生徒に係る情報交換を密にし、常に組織的な対応をする。 ② 校外の発表・展覧会に係る情報を学校内外で共有する。 ③ 諸行事を生徒が主体的に運営する体制を整える。	① 生徒指導に係る情報が適切に共有されているか。 ② HPや校内への情報提供が適切に行われているか。 ③ 運営組織の活動は活発化したか。諸行事に係る生徒の満足度は向上したか。	① 職員間で共有すべき生徒情報が会議等で随時提供され、共有された。 ② 連携がよくとれているとする保護者は約25%。 ③ 約42%の生徒が制約の中行われた学校行事に満足と回答。昨年比-2割。	B	多くの制約の中でも大宮光陵高校としての取組や行事を行うことができた。 4学科1コースの特色を資産として意識し、学校としての一体感を持てるよう情報を共有することで学びの意欲につなげていく。
4	(現状) 保護者の満足度や地域交流に対する評価には一定のものがある。これを維持発展することで本校への信頼をさらに高めたい。 (課題) 従来から積極的に情報発信を行っているが、必要な情報が確実にいきわたる工夫と配慮が必要である。	紙ベースだけでなく、HPや一斉メールの活用により確実な情報提供を行い、説明会や交流事業を通じて本校の特色を的確に発信する。	① メール配信システムを活用し、保護者への情報提供を活性化させる。 ② 学校説明会や行事、発表展示の情報をHPで発信する。 ③ 中学生とその保護者に提供する情報を精選する。	① 情報提供に対する保護者の満足度は向上したか。 ② HPへのアクセス数は増加したか。 ③ 説明会等の参加人数並びに本校志願者数は増加したか。	① 約44%が進路情報提供を適切とする。その他メール情報提供を活性化。 ② 1月のHPへのアクセス数は1日に500件強。 ③ 説明会の参加人数、志願者数に大きな変動はなかった。	B	メールやHPによる情報提供がこの数年で活性化し、校外に提供する情報は格段に増加している。 本校の教育実践とその成果を積極的に示していくことで、帰属意識と誇りを高めていく。

学 校 関 係 者 評 価	
実施日	令和4年2月21日
学校関係者からの意見・要望・評価等	
<p>生徒一人一人と真剣に向き合っているように感じた。 目標と評価は表裏一体なので、指導者が評価の改善・検討の視点を持つことは大変重要である。 具体的方策②として「考察や観察結果を整理し、表現すること」を求めているが、その意図が生徒に十分に浸透していないことを自己評価されていると理解した。</p> <p>進路情報の提供や相談に力を入れていることがわかる。 入試改革などに翻弄されながらも、熱心に進路指導されている様子がわかる。その一方で、目標を具体化できない生徒が半数近くいる。コロナ禍もあり、生徒が主体性を発揮したり、身に付けたりすることの困難を感じた。</p> <p>アンケートから多くの生徒が充実した学校生活を送っていると感じる。 コロナ禍において校外活動や国際交流も難しい中でも、これまでどおりの積極的な活動が維持されているようである。 職員間で共有すべき生徒情報が会議等で提供されているのは、よかった。</p> <p>様々な取組で、地域に貢献していると感じる。HPへのアクセス数を1つの基準とするなら、適切な情報発信が行われていることになる。HPについては、他校との比較やスマホ対応も有効かと思う。 これからも、これまで以上に地域とのつながりを大切にして欲しい。</p>	